

新潟県小学校教育研究会

会 報

全
会
員
配
布

編集発行：新潟県小学校教育研究会事務局
〒950-0908 新潟市幸西 3-3-1 (新潟会館 2 階)
電 話 新潟 (025) 290-2231
FAX 新潟 (025) 245-6060
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/>
E-mail k-shoken@niigata-inet.or.jp
印刷：(株) 第一印刷所
電 話 新潟 (025) 285-7161



映画制作と授業づくり

新潟県小学校教育研究会

会 長 江 端 周 二

映画が好きで、映画館によく行きます。大抵、毎月一日の映画の日か、メンズデーです。この日の料金は千円です。千円にこだわるのは、作品が期待どおりであれば何だか得をした気になるし、期待はずれだとしても「まあ千円だから」と思うと腹も立たないからです。

映画館通いは、小学校高学年の頃からです。映画「夕日が丘三丁目」の昭和三十年代です。当時、隣の市に文映、銀映、ニュー銀映の三つの映画館があり、家には、なぜか優待券がありました。それを使ってよく行きました。小学生だけでは入れないのですが、そこは知恵を絞って潜り込みます。時には担任と出っくわす時もあります。「子供だけで来ては駄目なんだよ。今日は仕方ない」、いつもこういって叱りません。いい先生の資格十分です。片岡千恵蔵「七つの顔の男」やゲーリー・クーパー「真昼の決闘」や、“旗本がこわくて奴がやれるか。幡随院長兵衛は男でござる”と啖呵を切る月形龍之介の顔が浮かんでくるから不思議です。

ところで、映画の制作と授業づくりはとても似ています。一本の映画の裏側には、原作者がいて、脚本家がいます。そして、演出家（監督）がいて、役者が演じます。裏方といわれる大道具、小道具、照明といったスタッフがいます。分業しながらも共同して作品を作り上げます。授業も同様です。授業構想を立て、指導内容を構成し、発問を考え、自ら演じます。教室環境を整え、教具を作ります。このほとんどを授業者一人でやります。「教師五態」、つまり、教師には教育者の仕事だけでなく、作家、研究者、役者、医者、技術者としての仕事も同時に求められているという言葉も授業づくりを考えれば納得できます。

映画制作と授業づくり、作品を作るということでは共通です。共に独自でクリエイティブな仕事です。日本の学校は校内研修が盛んで、これが教師の質の高さを保っていると言われています。校内研修の中心は授業づくりです。仕事は年々増え、多忙になっていますが、一本の映画を作るように一つの授業を作る。良い映画は観客を満足させ、良い授業は子供を満足させます。多忙感が充実感に変わる瞬間です。